

地域ブロック情報



日本社会福祉学会には7つの地域ブロックがあり、それぞれに特徴的な活動が展開されています。

今号では、北海道地域ブロックおよび東北地域ブロックの活動についてご紹介いたします。

北海道地域ブロック から

北海道地域ブロック担当理事
中村 和彦（北星学園大学）

前理事、北海道大学の松本伊智朗先生より引継ぎを受け、一年目の理事役割も終盤を迎えようとしています。記事原稿依頼がありましたので、私の雑感も含め、記してみたいと思います。予期せぬことは起きるもので、選挙の結果とはいえ、戸惑いしかありませんでした。北海道地域ブロックの理事は伝統ある北海道社会福祉学会の会長職を意味します。私自身の会員歴は30年になりますので、この間のことを思い返しますと、「とても…とても…」のリフレインでした。

さて地域ブロック理事の役割は日本社会福祉学会の運営に関与することもさることながら、地域ブロックの活性化にあると考えます。会員歴が長いとはいえ、私自身の所属意識と具体的コミットメントが弱く薄くなっていたことは否定できず、北海道地域ブロック（北海道社会福祉学会）の存在意義と役割を再考し具体的な学術活動として実行していかなければならないでしょう。そのことに繋げるため、これからの活動の活性化を担う運営委員等には多くの中堅・若手の方に入っていただきました。

恥ずかしい話になりますが、地域ブロック理事をお引き受けして初めて、今年度の学会フォーラムの開催が北海道であることを知ることになりました。そこで例年と比して年度末になってしまいますが、新しい運営委員の方々に知恵を絞っていただき、3月9日に開催できる運びとなりました。『軋む社会とセーフティネット ―転げ落ちない社会の構築を目指して』をテーマに、気鋭の財政学者・高端正幸先生を基調講演者にお迎えし、また北海道内各地でご活躍の実践者にシンポジストとして登壇していただき、今後の社会のあり方を見据えた北海道発のディスカッションができればと考えています。ぜひとも多くの方々にご参加いただければと思います。

学会活動の柱となる機関誌『北海道社会福祉研究』の発行は現在、第39号の編集作業中です。年3回の投稿締切日を設定したピアレビューによる電子ジャーナルとして、特に若手や

大学院生の研究成果公表の場になっています。また次代を担う方々への研究支援にも力を入れています。研究会も公刊された著作を選定し、道内外から著者をお呼びしておこなう「合評会」形式が定着しつつあります。さまざまな研究活動の場が用意され専門分化される実状のなか、日本社会福祉学会北海道地域ブロック（北海道社会福祉学会）のこれからを考えるとき、研究大会の札幌以外での開催、全道各地の実践者との共同研究の展開、大学院生の日常的な研究交流等々を実現し、包括・統合的な研究実践の場として継続できることが肝要と焦点を定めるところです。

東北地域ブロック から

東北地域ブロック担当理事
都築 光一（東北福祉大学）

1、還暦を迎える東北ブロック

東北ブロックは、1959年に地域ブロックとして10名の会員から活動を開始して、今年で60年を迎えます。これまでの地域ブロックとしての活動は、決して平たんなものではなかったとはいえ、かつての東北ブロックの研究活動の特徴は、仙台市を中心にソーシャルワーカー協会との合同セミナーの開催や、研究誌の発行などが行われていました。出稼ぎなどをはじめとした農村部における福祉課題や、歴史研究などが特徴でした。

その後東北では2000年前後に、社会福祉系大学や学部の新設が相次いだものの、地域ブロック活動は、むしろ一時期休止しました。2001年から活動が再開され、東北の特徴に根差したテーマを設定して7月の研究大会を行うほか、ニュースレターの発行および2005年からは研究誌の『東北の社会福祉研究』を発行して、今日に至っております。

2、近年の研究動向

最近の研究活動の特徴といたしましては、大学院生の研究発表が目につくことと、現場において実践活動を行っている社会人研究者の研究報告も少なくはないという点です。また研究テーマ自体は、全国の傾向と大きくは変わらないものの、貧困や過疎地における高齢者・障害者の生活問題などが、毎年報告されているところです。

2011年の東日本大震災以降は、災害に関する研究報告も数多く取り上げられるようになりました。また、日本社会福祉系学会連合と共同して、シンポジウム等を数次にわたり開催し、災害時における福祉分野からの取り組みについて、特に少子高齢化が進行する今日だからこそ、その必要性が高いという点に関して、情報発信をさせていただきました。

3、今後の活動の課題

2018年2月に重鎮であった渡邊剛士先生の追悼シンポジウムを仙台で開催いたしました。かつての東北の社会福祉の研究や実践について牽引してこられた方々が相次いで他界され、世代交代が進んでおります。また2000年前後に開設された社会福祉系の大学や学部におきましても、少子化の影響を受けております。こうした中で現在の東北ブロックの活動としては、若手研究者の研究発表の場と、研究史での論文発表の場をしっかりと提供することと併せて、東北の地域性に根ざした研究を地道ながらも積み重ねていくことが重要であると考えております。

還暦を迎えた東北ブロックは、これまでの東北における社会福祉研究や実践の歴史を築いてこられた多くの先生方に感謝しながら、これらの実績を踏まえて、60周年に関する何らかの企画を行いたいと思っております。